



# 能古博物館だより

## 博物館行きのお勧め

理事長兼館長 原 寛

最近、こんな新解釈を聞いた。

例えば話に出てくる「博物館行き」というのは、立派なモノを指しているのであると――。

私はそんなばかかと、相手を見返した。

大方の常識は、博物館にでも預けるほかない時代遅れの代物、というあたりだろう。ところが彼はまじめな顔で「いや、博物館に行くほどの価値がある立派なモノ、という意味なのです」と譲らない。

どこかの講演会で仕入れてきたネタらしい。「時代と共に言葉の解釈は変化するものなのです」とかわされた。

似たようなのに「お蔵入り」がある。ヒットしなかった映画などを言うが、これも大事にしまひこむこと、となるのだろうか。閑話休題。

例えば話は別にして、我々にとって「博物館行き」というのは、ときとして嬉しい巡り会いになる。



原 寛

数年前、海外引き揚げの展示物を血眼になって探していたと

き、福岡市内の年配の婦人から「処分したいが、要るなら差し上げます」と1冊の古本をいただいた。

昭和39年に刊行された1038頁のハードカバー『朝鮮終戦の記録』(森田芳夫著)である。膨大な資料と関係者からの聞き取りをもとに、20年近い歳月をかけて書き上げた名著で、古本市場にはなかなか現れない幻の1冊だった。

敗戦後68年が過ぎ、資料は散逸し、ほとんど少なくなっていく。もしお宅の片隅に眠っているものがあれば、どんなものでもいい。「博物館行き」を考えていただけないだろうか。医学史にまつわるモノも欲しい。

ご連絡あり次第まず参上して現物を見せてもらい、その上で「博物館行き」を判断させていただきたい。

処分されかけた『朝鮮終戦の記録』は担当者の手元で日々活用されている。

△写真の説明▽福岡市指定史跡「能古焼古窯跡」。館の敷地に隣接する永福寺所有地であり、自由に見学できる。福岡市内で唯一残された古窯であり貴重な遺産であるとして1990(平成2年)3月、市指定史跡に選ばれた。

※2ページに詳しい説明を掲載しています。

# 随想 能古の鹿狩り

水崎雄文

能古島にはかつて野生の鹿が多く生息していました。江戸時代の能古廻船業の優れた研究者であった故高田茂宏氏の著書には江戸時代に約600頭前後生息していたとされます。

能古の永福寺の過去帳には狩猟の誤射によって命を落とした農民のことが記されているそうです。おそらく藩主の鹿猟に勢子として駆り出され事故にあつたのでしょう。今もバス停の展望所入口から約200m下つたところの山中に、道路をはさんで東西にわたる鹿垣の残存が見られます。

これは江戸時代の1836(天保7)年に南側の農地への鹿の侵入を防ぎ、北側には堀をほどこし、禁猟区として藩主の猟場になっていたときの名残です。かつては東の海岸から西の海岸までおよそ2キロにわたっていました。

私が能古の鹿について知つたのは今から60年ほど前の1954(昭和29)年のことです。ある日父が「能古島にはまだ鹿がいるだろうかな」ともらした言葉でした。父が中学生だった大正時代にはいたというのです。

高校3年生だった私は同じクラスの能古から渡船で通学していた友人に尋ねると、子供のころは家のすぐ近くまで姿を現し、鳴声もよく聞いていたが、太平洋戦争が終わり福岡に米軍が駐留すると、休日ごとに軍人が鹿猟にやってくるので多くの鹿



みずさき たけふみ 1936年生まれ。51年九州大学大学院修士課程修了。福岡県立の4高校で日本史教員を務めた。在職中の1985年『修猷館二百年史』を編集。退職後の2004年には著書『校旗の誕生』(青弓社)を出版した。福岡市在住。

が仕留められ、船に積まれてゆくのを見たというのです。この頃から鹿の姿を見かけることがなくなり、鳴き声すら聞かなくなったということでした。

どうも終戦(1945年)から2、3年後には絶滅したようです。その後調べてみると江戸時代の鹿は明治に一度絶滅し、それを大正になって当時の残ノ島(能古島)村長が新たに鹿を山林に放つて復活させています。

## ☆

ところで江戸時代末期の1858(安政5)年いわゆる5カ国条約による開国以来、外国船の来航が各地で相次ぎますが、1867年1月(慶応2年12月)長崎から兵庫に向かうイギリス軍艦4隻が博多湾に入航して能古島の眼前に投錨しています。

当時の藩主黒田長溥は蘭癖大名といわれ、蘭学に明るくしばしば長崎でオランダ商館員とも交流しました。たまたま世子長知と長崎に滞在していたとき博多入航許可の申し入れを受け、父子ともども急遽藩の蒸気船大鵬丸で帰国し、イギリス軍艦入航のときは祝砲を撃つて歓迎し、翌日は湾内に停泊していたイギリス軍艦を訪れて提督アドミラルと歓談し、艦内を見学しています。

## ・能古焼古窯跡・

能古焼古窯は島の南東側緩斜面の尖端部分に立地し、標高は23〜28mである。現在のように整備される以前は天井部が崩落したような状態で部分的に露出していた。

文献資料によれば江戸時代中期から天明年間に操業が行われたと考えられ、操業期間も20年前後と短期間にとどまったものと考えられる。

窯跡の確認調査は1988(昭和63)年10月24日から12月2日にかけて遺構確認を目的として市教委により行われた。

窯は東端に焚き口を有し焼成室7室で構成される全長約22mの連房式登窯である。

出土した陶磁器類は有田焼系の染付であり、そのほか白磁・青磁と高取焼系の陶器が1〜2割程度を占めている。

染付の皿には内面見込み部分に昆虫の文様が手描きされ、蛇の目高台の外底面に方形枠を描きその内部に「渦福」と書いたものがある。この文様は有田周辺の筒井窯で見られる手法であり注目される。

この調査結果をもとに有田焼系磁器と高取焼系陶器を焼成した窯として稀少である上、福岡市域内で唯一残された古窯として1990(平成2年)3月、市指定史跡に選ばれた。

平成17年3月20日発生福岡県西方沖地震及びその余震により、焼成各室において壁体の崩落が認められた。このため毀損箇所を復旧を目的として基質強化処理、亀裂部分の充填、擬土・アンカー等による補強工事が行われた。福岡市内では初めての工事であり、文化財修復の点でも注目される事業であった。

(能古博物館だより号外より引用)

翌日は箱崎の茶屋で提督や下士官を饗応し、4日目は能古の禁猟区での狩猟に招待しています。このときの記録がいくつか残っていますが、『金子堅太郎自叙伝』には父親から聞いた話として「獲得シタル猪麝(ちゅうじやく)ハ百数十頭ニ及ビ」とあり、『従二位黒田長溥公伝』には上海の新聞に載ったイギリス軍艦の長崎から兵庫にいたる航海報告記が紹介されており、その翻訳記事には「鹿五〇 猪二匹」とあります。ずいぶん差がありますが、いずれにしても1日で大量の鹿を仕留めたことがうかがえます。狩りの翌日イギリス軍艦を再度訪れた長溥に対し、提督は帆柱に水兵を登らせ祝砲を撃って迎え、湾内で海上演習を披露し、発射した砲弾を海上三ヶ所の標的に見事命中させて長溥を驚かせています。これらの演習は福博の土族庶民はもとより能



今はもう見られない鹿狩り

### 屋久島産の鹿が繁殖

明治初年以降はすっかり姿を消した鹿の姿をもう一度よみがえらせ、名物にしようとしたのは大正初期、石橋孫造村長のころです。苦心して屋久島から九頭運び込んだのですが、これが10余年間に盛んに増え、こんどは増えすぎて困るほどになったのです。

昭和5年ごろ、鹿が繁殖して農作物を荒らすので、村から県に出願して狩猟区を設定し、11月から翌年2月までの間、入場料10円を取り一般に開放することになり、これはその後約10年続けられました。

設けられた猟場には、福岡市などからハンターたちが猟犬を連れて数日おきに乗りこみ、獲物の多い日は6、7頭も止めます。私は村会議員として猟に立ち会いました。

「能古に生きる 西方喜平自伝より」

古の島民も驚愕の眼でもって実見しています。

イギリス軍艦乗組員たちの鹿猟が行なわれた翌1868(明治元)年は明治維新の年であり、江戸幕府は滅亡しますが、藩体制はしばらく存続します。

1870(明治3)年12月突如プロシア(ドイツ統一は1871年)船が能古島に接近し、狩猟犬を連れて無断上陸するという事件が発生します。藩は急遽調査を行いますが、略奪などもなく事なきをえます。また略奪の無かったとの記事からすると狩猟はしていないと思われま

す。能古島は外洋に面し外国船の接近は宿命的なものでした。しかしイギリス軍人の鹿猟以来、外国人には能古は鹿の生息する島、鹿猟のできる島として知られるようになったようです。

### 公益財団法人への移行認定と

#### 寄附金控除について

能古博物館の運営法人であります「亀陽文庫」は、福岡県からの認定を受け、平成25年4月1日付で公益財団法人になりました。

これに伴い、「能古博物館・友の会」(年会費3,000円)は従来通りの扱いで継続させて頂きませんが、「協賛会」については、左記のように運営を変更させて頂いております。

従来の「協賛会費」を廃し、協賛の金額を「寄附」扱いとし、寄附者に対して「受領証」を発行する。

これにより亀陽文庫へ「寄附」をなさった方は、確定申告の手続きを行うことで、税制上の寄附金控除の優遇措置を受けることができます。

「寄附金の控除」の概要は以下のとおりです。

(1)個人が支出した寄附金の控除(所得控除)について。

特定寄附金の額の合計額ー2千円〓寄附金控除額

\*特定寄附金の額の合計額は、所得金額の40%相当額が限度です。

\*公益財団法人、同社団法人その他の公益を目的とする事業を行う法人または団体に対する寄附金は、「指定寄附金」として特定寄附金に含まれます。

(2)法人が支出した寄附金の損金算入限度額について。

①特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額(当法人が該当)

(資本金等の額×当期の月数÷12×0.375%)  
+所得の金額×6.25%)÷2

〇詳しくは最寄りの税務署や税理士事務所にご相談ください。

〇亀陽文庫への協賛寄付について。

寄附については、個人 一口10,000円/年×口数

法人 一口30,000円/年×口数

でお願いしています。



# レター・ フロム ・ロンドン

井本敏明様

能古博物館で色々  
お世話下さった女性  
職員の方のお名前を  
思い出せなくて失礼  
しますが、彼女が大



英博物館を見学するのが夢だと仰って  
いましたが、その夢を叶えて差し上げた  
気がいたします。日英往復の切符だけ  
はご自分で出していただければ、宿泊は  
拙宅(ミソ汁とタクアンの朝食付き)を  
無料にします。そして私がポイント案内  
をすれば観光も自分で安上がりになり  
ます。4泊5日考えてあげて下さい。私  
は1人住まいだから気楽ですよ。ネコが  
1匹います。

平成25年8月16日

久我 篁子拝

久我 篁(せつ)子様

この度は私共の博物館にロンドンから  
お出でいただき、有難うございました。そ  
のうえ多額のご寄付とエリザベス女王の  
写真集を頂戴し恐縮しております。

またご友人で元能古中学英語教諭井本  
敏明さん(78歳)〓福岡市城南区千隈〓  
を通じ、当日居合わせた女性職員に大英  
博物館見学のお誘いを頂きました。重ね  
てお礼申し上げます。

お聞きしたところ唐津市のご出身で英  
国在住50年。お子さん4人、お孫さん6人。  
ロンドン大学日本語学科で20年間教鞭を  
取られた後、日本の大学でも勤務され、現  
在は大英博物館のボランティアをなさっ  
ているとか。

久我様との思いがけない出会いに、能古  
博物館一同、深く感謝いたします。

能古博物館長 原 寛

久我さんは、唐津東高校の同級生井本さん  
との数十年ぶりの再会の場を能古博物館に  
決め、前日は島内の旅館に泊った。しかし井本  
さんが夏風邪でダウンしてお流れになった。

## 寄付金(敬称略)

▽7月12日 久我篁子5万円

## 主なグループ来館者(平成25年4月〜同25年9月)



▽4月12日(金)能古保育園児  
12名「貝がら」などの見学▽4月  
26日(金)能古小学校5・6年生  
24名「島の歴史」の勉強「博多湾  
の歴史」〓写真上〓▽5月17日  
(金)能古小学校5・6年生24名  
博物館全  
体の見学  
▽5月25  
日(土)太



宰府漢詩の会16名▽6月9日(日)  
西区地域振興課、まるごと博物館共  
催「能古アジサイウォーク」77名〓写  
真下〓▽  
6月21日  
(金)能古  
小学校2  
年生見学「能古島の勉強」▽7月  
5日(金)能古小学校5・6年生  
13名「島の歴史研究」▽8月1日  
(木)福岡市立少年科学文化会館  
「親と子の自然観察の集い」(展示  
鉱物の見学と休憩)45名〓写真  
上〓。



訃報 原寛館長の実兄で協賛会員の医師原敬二郎さんが8月19日亡  
くなった。享年83。長年にわたり法人、個人両面で館の運営に貢献した。  
御冥福を祈ります。

能古博物館協賛ご寄附及び友の会(継続・新規)会員

(平成25年9月現在)

協賛ご寄附

(法人)

- 医療法人 笠松会 有吉病院
- 税理士法人エム・エイ・シー
- エームサービス(株)
- 医療法人社団江頭会 さくら病院
- (株)サンコー
- (株)CDS
- (株)筑紫不動産
- 西日本シティ銀行
- 医療法人 西福岡病院
- 医療法人 原三信病院
- (医)博仁会

- (株)ホームケアサービス
- (株)メディカルアシスト青葉
- (敬称略 順不同)

(個人)

- 出光 芳秀 上崎 典雄 柏木 重人
- 島塚 祐弘 原敬二郎 舟越 茂義
- 増田 康治 翠川 文字

協賛ご寄附のご案内

個人10万円×口数  
法人100万円×口数

・税制上の「寄附金控除」の対象となります。

納入方法

- 1、郵便振替 01730960970
- 公益財団法人 亀陽文庫

2、銀行振込

- 西日本シティ銀行 土井支店
- 普通 0551459
- 公益財団法人 亀陽文庫

友の会会員

明石 幸	梅埜 國夫	小堀 瑠伊子	田里 朝男	原 祐一	簗原 聡
赤松 慶礼	江口 正一	小宮 作	田代 健治	原口 和子	三宅 碧子
秋山 雄治	江崎 小二郎	小柳 定子	田代 朝子	原坂 泰盛	宮崎 美津子
麻吉 芳雄	大石 由美子	小山 儀一郎	多々羅 吉臣	原田 雄平	村岡 健治
新川 芳正	大石 恭仁子	境野 俊男	立石 京	日野 原重明	杜あとも
新川 時弘	大木 茂	神和美	田中 啓介	姫野 弘美	森 悦次郎
有川 優子	大智 照子	坂口 征雄	田村 奈央	平川 好美	森 純子
池田 修三	大野 彩子	櫻木 榮紀	辻野 一男	平川 良輔	森 正敏
池田 淳治	大庭 浩司	佐々木 昭司	徳永 武生和子	廣田 恵美子	森下 昭子
池田 昌朗	大庭 静枝	佐々木 三三子	豊永 靖雄	福井 和子	森本 繁
池松 幾生	岡部 九州生	佐藤 郁男	豊田 富美子	福元 征四郎	安井 久喬
石井 福美	岡本 頭實	佐々木 ミノエ	豊田 文彦	福山 智美	安恒 忠男
石川 経子	荻原 美枝子	塩田 康文	永岡 喜代太	藤瀬 三枝子	安松 博史
石橋 清助	小野崎 徹	執行 敏彦	中塩 喜美子	藤田 信義	矢野 鈴子
石橋 哲治	柏木 和子	地頭所 ミエ子	中島 謙吾	藤川 昌弘	山川 美也子
石橋 延枝	香月 悦子	篠田 米太郎	中島 怜子	船津 康幸	山口 勝久
石橋 正治	金子 柳水	篠原 ヨシ子	鍋島 典子	豊丹 生昌義	山崎 博司
石橋 善弘	上治 正子	柴戸 次雄	成富 耕志	古川 映子	山田 博子
石橋 亮介	嘉村 正子	柴本 隼太	成富 睦夫	星川 満智	山本 千恵子
泉 建志	川田 啓治	白木 太一郎	西川 俊司	堀川 大助	山本 留美
板倉 修二	河野 道博	進藤 康子	西川 晴己	眞柴 和子	結城 威
市丸 喜郎	河邊 眞二	杉謙一	西田 靖子	増田 志津子	吉倉 禎子
井出 美子	木血 敦代	杉原 正毅	西牟田 奈々	眞角 磨規枝	吉田 泰久
出光 豊	岸川 伸子	岡師 祐子	野崎 紀子	松井 俊規	吉田 洋一
稲葉 英彦	岸永 昭義	住本 直之	野崎 逸郎	松岡 智恵子	吉安 蓉子
今永 一成	今村 さち	関賢司	信友 浩一	松熊 友彦	吉松 須和子
岩城 元	石清水 由紀子	関敏巳	波多野 直之	松崎 由紀子	米倉 満子
岩本 博秀	岩本 博秀	瀬戸 美都子	波多野 洋子	松本 美津子	若杉 佳昭
上瀧 玲子	上瀧 玲子	八田 明美	服部 たか子	松吉 千鶴子	脇山 玉枝
上田 幸則	上田 幸則	高木 いつみ	花田 ひろ子	的野 恭一	和田 宏子
上田 恒久	上田 恒久	高島 英介	濱崎 須美子	丸山 敏子	渡辺 彰
上原 孝正	上原 孝正	高嶋 季雄	林 昌也	三浦 佑之	
上村 八郎	上村 八郎	高根 襄光	林 由紀子	見沢 照栄	
牛島 弘子	牛島 弘子	高山 博光	早船 正夫	三戸 京子	
内山 節子	内山 節子	武末 照男	原和美	味園 弘美	
宇都宮 邦子	宇都宮 邦子	田坂 大蔵	原順子	三野 原勝子	
内海 眞記子	内海 眞記子		原靖子		

友の会入会の案内

友の会会費

1000円(何口でも可)

※会費の納入方法

郵便振替

01730960970

公益財団法人 亀陽文庫

(1) 振込み料は当館にて負担致します。

(2) 受け付け次第、会員証とコーヒークットをお送り致します。

(3) 会費有効期限は1年と致します。

(4) 入館時に会員証(同伴1名まで有効)を受付にて提示下さい。入館は随意で回数制限はなく無料です。

(5) コーヒークットで挽きたての香り豊かなコーヒークットを致します。

(6) 「能古博物館だより」を年数回お送り致します。また、会員の皆様のご寄稿、ご意見は同誌に掲載致します。但し諸事情で掲載を見送る場合がございます。予めご了承下さい。

(7) 館が企画する催物のご案内と参加費の割引を致します。

注1 敬称略 五十音順  
数字は会員歴年数



## アクセス

### 西鉄バス

・JR博多駅 博多口正面Aのりば  
300、301、302番 能古渡船場行:約50分

・天神 三越前1Aのりば  
300、301、302番 能古渡船場行:約30分

### 市営地下鉄:「姪浜駅」下車 乗り継ぎ

・西鉄バス姪浜駅 北口  
98番 能古渡船場行:約12分

・タクシー:約 8分

### 市営渡船(フェリー)

・姪浜-能古島間:約10分

### 能古島渡船場より博物館まで

・徒歩:約10分

・アイランドパーク行き西鉄バス停  
「能古学校前」下車、徒歩(下り坂)約3分

### 問合せ

姪浜旅客待合所 TEL 092-881-8709

能古旅客待合所 TEL 092-881-0900

能古-姪浜航路時刻表

	能古 発	姪の浜 発
1	◎05:00	◎05:15
2	06:00	06:15
3	06:30	06:45
4	07:00	07:15
5	07:30	07:45
6	08:00	08:15
7	09:00	09:15
8	10:00	10:15
9	11:00	11:15
10	12:00	12:15
11	13:00	13:15
12	14:00	14:15
13	15:00	15:15
14	16:00	16:15
15	17:00	17:15
16	17:30	17:45
17	18:00	18:15
18	18:30	18:45
19	19:30	19:45
20	20:15	20:30
21	20:45	21:00
22	21:45	22:00
23	◎22:45	◎23:00

◎印は日祝日運休 2013年9月現在

開館日/毎週 金曜・土曜・日曜と祝日

開館時間/10:00~17:00(入館16:30まで)

(注) 冬季(12月~1月)は、年末年始及び展示物入れ替えなどで長期休館を原則としています。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください  
団体20名以上2割引

入館料/大人400円・高校生以下無料

### 渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成25年9月30日現在)

渡船場前発(能古学校前まで約2分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	05 48	45	30	30	55	35	35	35	45		
土曜日	05 48	45	30	30	55	35	35	35	45		
日・祝日	05 48	45	30	30	55	35	35	35	45		00

アイランドパーク発(能古学校前まで約8分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
土曜日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
日・祝日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	38

※ 繁忙期はバス、渡船とも臨時便が運行されます。



公益財団法人 亀陽文庫

能古博物館

〒819-0012 福岡市西区能古522-2 TEL 092-883-2887 FAX 092-883-2881  
http://nokonoshima-museum.or.jp E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp